先端創薬科学専攻　D1　望月　龍さん

プロジェクト生になった感想

- 心に余裕が生まれる（少なくともお金について悩む必要がない）。
- 第2研究分野や各種セミナー等の参加で、視野を広げられる。

研究費について

- 自分の意思で試薬等を購入することができ、自主的に研究が進められる。
- （これまで以上に）学会に積極的に参加できる。

プロジェクトに参加を検討している学生に向けて

- 主に金銭面で博士課程進学を悩んでいるのであれば、是非とも検討すべき。
- 普通に博士課程に進学するよりも得られるものは多い（と思う）。

看護学専攻　D2　石坂　晴奈さん

プロジェクト生になった感想

やりたいことを後押ししてくれていると感じます

修士の頃から続けてきた研究交流も応援していただいています

研究費について

経済面で参加・購入を迷っていたのが、迷わなくてもよくなったことは大変有難いです

おかげさまで、研究の効率もよくなっていると感じています

プロジェクト生に求める活動について

まぜこぜ! MeetUp

学生による
学生のための
研究交流です

自分の研究をわかりやすく伝える力と、異なる考え方を受け入れる柔軟性が自然と身に付きます

プロジェクトに参加を検討している学生に向けて

このようなプロジェクトのおかげで、研究を続けたい学生が研究を続けられる体制が整ってきています

軽々しく「博士課程へ!」とはいえませんが、応援してくれる人や制度がありますので、ぜひ。

地球科学専攻　D1　齋木　匠さん

プロジェクト生になった感想

仕事は増える
- 自主研究チャレンジ
- ダブルメジャー
- 事務処理
- etc.

自由度も増える
- 資金 (研究費，生活費)
- 研究テーマ

研究職に求められる能力を鍛えられる良い制度
- **資金調達能力** (研究テーマのアピール)
- **他分野との連携能力** (新たなテーマの発見)

研究費について

現在の使用経験: **書籍購入，学会参加**
- 経費利用は**複数の書類提出**が必要
- 学会参加は**立替払い**
- 詳細な手続き書を貰うので迷わない
- できる限り**満額申請**すべき

プロジェクト生の活動: ダブルメジャー

メインの研究分野: 機械学習 (AI)
ダブルメジャー: **教育学**
ここまでの進捗
1. Webサイト，学務から連絡先を入手
2. 教員と話し合い，参加方法を決定
    a. 教員の開催する**修士の授業に参加**
    b. 定期的に**教員を訪ね意見交換**

現在までに学んだこと
- **現在の教育におけるICT技術の導入状況**
- **関連する国際学会の研究状況**

申請を検討中の学生へ

博士課程は
- 専門分野に特化，**大局的視野の維持は困難**
- 従来の支援制度(DC等)は**専門性を磨くことが主目的**

全方位プロジェクトは
- **分野を横断する新たな研究**に着手できる
- **新たな研究領域を開拓**したい人に向いている制度

看護学専攻　D3　東辻　朝彦さん

プロジェクト生になった感想

伸び代が
2.5倍になった

1　＝主専攻
1.2　＝計画書作成
2　＝第2専攻
2.5　＝交互作用

研究費について

研究費がなければ
第２専攻は
実現しなかった

主な活用法
- 機材の購入
- テープ起こし
- 研究協力謝金
- 文房具購入

プロジェクトに参加を検討している学生に向けて

あなたの伸び代を
2.5倍にする機会を
逃さないでください。

「求める活動」は
採用されてから
仲間で協力して
達成できます！

プロジェクト生に求める活動について

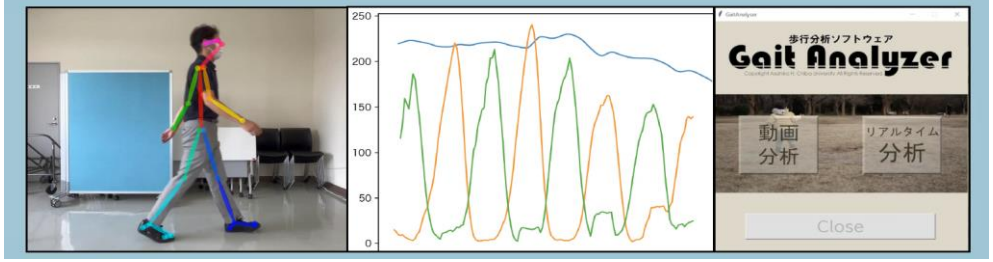
ダブルメジャー
（主専攻と異なる分野の教員を
指導教員とし、成果をあげる）

第2分野：工学
↓
第10回看護理工学会学術集会にて「心機能評価のための人工知能を用いた歩行分析ソフトウェアの開発」を発表

得たもの：学際的視点の獲得
①工学と看護の両方の表現が使えるようになった
（計測/特徴量/入力 vs アセスメント）
②分野を統合して実現性を考えられるようになった
（工学が可能なこと and 看護が可能なこと）

行　動：①目標設定（２つの分野の言葉を使う）
②第2専攻の指導教員探し・依頼
（分野横断セミナーの繋がりを活用）
③定期ミーティング・ゼミ参加
④第2専攻に関する自己学習

内　容：①単眼カメラを用いて、歩行の様子を撮影し、人工知能を用いて解析することで、歩行姿勢を数値化するソフトウェアを開発した。
②看護師が利用可能なインターフェイスを作成して誰でも分析が可能にした。



先端医学薬学専攻　D1　長沢　思音さん

プロジェクト生になった感想

生活費の支給がある点が助かっています。金銭的負担から一時期博士課程進学をあきらめようと思っていました。学業が続けられるようになり、感謝しています。

研究費について

研究費は試薬の購入や学会参加の費用に充てています。自らの研究費で購入できるため、研究活動を自主的に行えてるという実感を感じられます。

プロジェクト生に求める活動について

自主発展型研修

予防医学センター主催のドイツのシャリテ大学研修プログラムに参加しました。
９月２６日から２９日まで、現地で予防医学に関する講義を聞き、現地の学生と交流しました。
公衆衛生にいてやドイツという国について理解を深めることができました。

プロジェクトに参加を検討している学生に向けて

プロジェクトからのサポートが心理的な余裕につながり、博士課程の勉学により集中することができると思います。